

令和6年度 第2回空知地域づくり連携会議（中空知ブロック） 議事要旨

日時：令和7年1月27日(月)15:30～17:00

会場：ホテル三浦華園（滝川市）1階オーロラホール



会議の様子

出席者（構成員等）

芦別市長（代理：副市長）、赤平市長、滝川市長、砂川市長、歌志内市長、奈井江町長、上砂川町長、浦臼町長、新十津川町長、雨竜町長、空知総合振興局長、札幌開発建設部長

議 事

（１）道央広域連携地域政策展開方針について

- 資料１－１及び資料１－２により、これまでの経過、パブリックコメントの結果、今後のスケジュールについて説明。
- 資料１－３により、道央広域連携地域政策展開方針（原案）の「主な施策の展開方向」、及び「地域重点政策ユニット」のうち、主に空知地域において重点的に取り組むプロジェクト（①日本遺産「炭鉄港」を活用した交流人口拡大プロジェクト、②一次産業の未来を広げる産業振興プロジェクト、③「空知」の魅力発信・誘客促進プロジェクト、④「空知に関わりを持つ人材創出プロジェクト」、⑤ジオパークの連携による関係人口等の創出・拡大プロジェクト）について説明。

（２）次期道央広域連携地域「地域づくり推進ビジョン」について

- 資料２により、令和6年度第1回空知地域づくり連携会議（令和6年6月26日開催）にて審議いただいた「Ⅰ．地域のめざす姿」、「Ⅱ．地域のめざす姿に向けた施策の方向」及び「ビジョンの進め方」についてご紹介の上、今回新たに取りまとめ

た「Ⅲ. 地域重点プロジェクト」(①地域の強みを活かした産業を育成し、本道の経済をリード、②地域の資源・特性を活かし、我が国の食料安全保障を支え、脱炭素化を先導、③北海道の自然環境・文化の継承と、地域資源を活かした観光地域づくり、④生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくり)、プロジェクトを支えるインフラ整備及び官民共創の取組について説明。

共創ミーティング

○芦別市副市長

- ・高齢化率が高く、自動車免許証の返納も増加。集落が点在する中、地域住民の足の確保が最大の課題。公共交通事業者間に留まらない、福祉や介護など他分野との連携による地域内交通の利便性確保、持続性向上に向け、そのための仕組みづくりを模索している。
- ・まちの持続・発展のためには地域経済を支える人材の育成・確保が重要。商工会議所と連携し、高校生を対象とした企業合同説明会を実施しており、一定の成果を上げている。今後はより広域な枠組みでの取組に期待したい。
- ・炭鉄港については、小樽や室蘭との連携によるPRの実施等によって、認知度も向上しており、炭鉄港めしの「ガタタン」提供店への来客も増加している。今後も炭鉱遺産を活用した地域活性化のためのコンテンツづくりを進めていきたい。

○赤平市長

- ・炭鉱遺産ガイダンス施設でのガイド付き見学が好評で、延べ6万人(施設オープン以降)が訪問した。2月には「炭鉄港マイクラ みんなで作るワークショップ in 赤平」を開催。仮想空間で旧住友赤平炭鉱の立坑櫓をブロックで再現し、完成後はインターネットで公開する予定。
- ・3月には、炭鉄港めしの「がんがん鍋」が一堂に会する「がんがん祭り」を開催する予定。その魅力を発信するとともに、交流関係人口の創出につなげたい。
- ・スポーツを通じた次世代育成の取組として、昨年6月に北海道コンサドーレ札幌と包括連携協定を締結した。赤平市のイメージカラーである赤と黒を活用したまちづくりにも活かし、民間との共創に取り組んでいきたい。

○滝川市長

- ・「新しい地方経済・生活環境創生交付金」に非常に期待している。特に防災に対する支援が手厚くなることから当市においても活用していきたい。また、賑わいづくりのためのまちなか再生事業にもハード・ソフト両面での活用に向けて、引き続き、情報提供をお願いしたい。
- ・ラピダスの進出に伴い、企業誘致をはじめ、中空知として何ができるのか、共に考えていかなければいけないと思う。
- ・全国で最も高い電気料金の引き下げに向けて、道から国に対して働きかけてほしい。また、

水道施設の老朽化が進み、著しい人口減少の中、維持管理に苦慮している。水道行政が国土交通省へ移管されたことを受け、今後も引き続きご支援いただきたい。

○砂川市長

- ・市内企業が高校に出向き、生徒に仕事を知ってもらう「ジョブスタート事業」を推進しているところ。しかし、卒業後に札幌圏や首都圏に流出する現状の打破には至っていない。
- ・砂川オアシスパーク（砂川遊水地）について、昨年、砂川地区かわまちづくりの完成式が行われ、利活用が進んでいる。夏はイベントが目白押しで、冬のワカサギ釣りやスイートロードとの連携など、国と市と民間の共創が推進されており、砂川の大きな魅力の一つとなっている。
- ・令和9年3月末に控える北海道電力砂川火力発電所が閉鎖される。国道の流雪溝には発電所から排出される水を活用している。バイオマス発電の活用等、仕組みづくりに向けて各方面に働きかけをしており、脱炭素・ゼロカーボンに向けた取組を検討していきたい。

○歌志内市長

- ・観光施設「悲別ロマン座」を日本遺産「炭鉄港」構成文化財としての登録を目指している。
- ・本市の「上歌ヴィンヤード」のワインが、京都で開催されたミシュラン三つ星レストランの期間限定店でペアリングワインとして提供される等、高い評価を受けている。今後、ふるさと納税の返礼品としての活用など、さらなる展開を期待している。
- ・令和9年3月の砂川火力発電所廃に伴って、令和8年12月、当市の石炭産業がピリオドを打つこととなる。露頭炭採掘跡地活用に向けて、風力及び太陽光発電の再エネ活用について空知炭礦と調査を進めている。新たな発電施設の設置、維持管理によって雇用を創出にも期待している。
- ・道の駅「うたしないチロルの湯」の新たな指定管理者が決まり、4月から観光施設の拠点として施設の管理運営を行っていく予定。

○奈井江町長

- ・ソニーや住友商事などの企業との交流を通じて、外からの目線で様々な分野においてアドバイスを頂いている。空き家対策、フィンランドのモルック、まち中音楽を柱にした活性化などに取り組んでいる。
- ・また、現在13名いる地域おこし協力隊の皆さんも、スポーツ、健康づくり、音楽など、様々な視点で町の魅力を全国に発信してくれている。
- ・町内の融雪溝には下水処理水を利用しているが、人口減少に伴って水の確保が困難になることも懸念している。
- ・道の駅「ハウスヤルビ奈井江」は、防災拠点自動車駐車場として指定を受けているところ。激甚災害が頻発する中、防災拠点としての機能を強化していきたい。
- ・人口減少が進む中、行政も住民も従来の意識を変えていくことも必要。あらゆる制度の活用を検討していきたい。

○上砂川町長

- ・高齢化率 51%。後期高齢者率も 3 割を超える状況の中で、令和 7 年度から新たな総合計画がスタートする。今後も高齢化が進む中、行政だけでは支援が難しくなってくることから、民間事業者も含めて話し合いをしているところ。
- ・当町にはワインのお供となるチーズは作っている。ものづくりの立場から関わるのができたらと思う。
- ・地域おこし協力隊 4 名の中に、高校生と企業をつなぐ取組によって「北海道スタートアップスタジオ」の採択を受けた隊員がいる。
- ・昨年 3 月には学校法人田中学園と包括連携協定を締結した。他地域での農業体験等と広域的な連携を検討していきたい。
- ・道央圏連絡道路の中樹林道路の開通によって、当町から苫小牧まで製品を運ぶ地元企業としても輸送時間短縮やドライバー不足の解消に期待を寄せているところ。

○浦臼町長

- ・道の駅の改修に向けて、前に進める段階まできた。急速 EV 充電施設の整備や防災機能の強化などについて今後も検討していきたい。
- ・農業基本法が改正され、スマート農業の推進が大きなポイントとなっている。昨年 11 月にヤンマーアグリジャパン北海道支社と協定を締結し、衛星データを活用した農業機械との連携など、民間企業と組むことによって町単独では踏み込めない一歩進んだ取組が可能になった。
- ・スマート農業の技術を真に有効活用するためには、基盤整備とセットで進めることが重要。また、今後技術が進むことによって、今は高価な機械も価格が下がって、より一層普及することを期待。
- ・町内の鶴沼ワイナリーでは、3 年ほど前から北海道大学農学部の野口教授を先頭に、トヨタ通商、NTT 東日本等とコンソーシアムを設立し、ブドウ栽培のスマート農業化の推進に向け、国の支援も受けながら実証試験を進めている。
- ・人材の確保が一番の課題。ニセコ地域では外資や大手が高い単価で雇っているとの報道があった。地方では賃金を上げて対応できないこともあり、全道トータルでの取組を期待したい。

○新十津川町長

- ・国の公共施設の観光活用について、当町の徳富ダムでの日本酒の貯蔵等、観光振興のために活用していきたい。また、先日、空知の冬の観光資源を巡るバスツアーが行われ、本町の雪まつりにも来訪いただいた。交流人口を生むきっかけとして、四季を通じていろいろなところで展開してほしい。
- ・ワインの協議会設立の説明があったが、空知には歴史ある酒蔵もあるので、ワインと合わせ日本酒の PR にも注力いただきたい。当町は、酒米作付面積のシェアが全道一。酒米粉

の有効活用等、今後の展開に期待したい。

- ・水道事業については、新十津川町、浦臼町、雨竜町による水道事業団が運営。耐震化、施設の更新等が喫緊の課題となっており、使用料だけではまかなうことは困難である。水道行政が国土交通省へ移管されたことに期待している。

○雨竜町長

- ・国及び道による農業基盤整備後の有効活用のために、スマート農業の推進はもちろん、担い手確保が大きな課題。次期政策展開方針の「一次産業の未来を広げるプロジェクト」に注目している。
- ・地域おこし協力隊の任期を終えた元隊員で町内や隣町で活躍している方もいるが、現在の隊員数はゼロ。引き続き募集を続けているところ。
- ・道の駅のリニューアルについては、現在策定中の次の振興基本計画に盛り込むことになる。また、スポーツによるまちづくりの取組として北海道日本ハムファイターズとの連携事業の継続や、今後は関連する企業との連携も考えているところ。
- ・地域の担い手が少なくなり、災害時のマンパワーが心配。ライフラインをしっかりと保つため、相互の協力関係をお願いしたい。
- ・少雪による春先のダム水量確保の心配、一方で、年間降水量が変わらないとしたときの夏場の大雨も心配される。関係機関の相互の連携協力が重要。

○空知総合振興局長

- ・人材育成について、管内からの人材流出を防ぐことができるよう管内全体で取り組んでいきたい。
- ・炭鉄港については、4月以降の再認定に向けて、10年間の活性化戦略、当面3年間の活性化計画を策定している。小樽や室蘭など外から人を呼び寄せる観光ツールとして発信していきたい。
- ・ラピダス進出について、経済効果をいかに地域に波及させるかが重要であり、また、企業誘致を進める一方で、空知からの人口流出も懸念。税制上の優遇措置や道央圏連絡道路など条件的優位性をアピールしていきたい。
- ・水道事業については、全道・全国的な問題。地域住民の負担とならずに施設を更新できるよう、ハード面での国の支援や税金なども活用しながら、しっかり進めていきたい。
- ・ワインを核として、観光業や建設業など地域の産業を巻き込んだ形での取組としたい。2月に空知ワイン協会が設立されるが、その後の地域活性化に向けて一緒に取り組みを進めていきたい。
- ・人口減少について、管内28万人が2050年には14万人になると試算。新十津川町の子育て教育環境、沼田町の移住したいまち1位、南幌町の人口社会増など、各市町様々な努力をされており、各市町の魅力発信について協力していきたい。
- ・スマート農業について、昨年10月にスマート農業推進法ができ、農業機械を有利な条件で導入できるようになった。振興局では、令和3年度にスマート農業推進室を設置。

より地域に寄り添った形で推進していきたい。

- ・管内 135 名の地域おこし協力隊の皆さんに様々な分野で活躍いただいている。地域に興味を持ってもらい、定住につながることを期待。

○札幌開発建設部長

- ・空知管内の共通課題である少子高齢化・人口減少、併せて各市町の個別課題もお聞かせいただくとともに、国の 9 期計画の推進に向けて「共創」をキーワードに意見交換させていただいた。様々な共創が考えられるが、この会議の参加メンバーである開発建設部、総合振興局、市町村は共創の基本的な主体である。引き続き互いの連携を強めて地域づくりに取り組んでいきたいと考えているので、よろしくお願いします。